

青空選挙新潟

2002年
9月10日快晴
「青空選挙」の
幕開け

intelligence & Communication
青空を呼ぶ市民ネット新潟通信 No.2



21世紀の新潟市を信濃川やすらぎ堤で語る。



変革へのコーディネーターを決意!!

市民の心から、どんより、もやもやを吹き払い、
官から民への流れを創ります。

官僚主導の地域づくりはいま大きな転換期を迎えています。横浜市や長野県のように市民・県民の思いをすくい上げるまちづくりが始まっています。過去のしがらみや権益から離れ、民間の知恵や活力を活かして市民とともに歩む清新な市政を実現しましょう。

市民が生き生きと躍動する
政令都市づくりを推進します。

市町村合併や政令都市づくりでは、なによりも地域住民が大切です。まちづくりを進める分権型の市役所に改革することが重要です。市民と市役所が離れては合併—政令都市は意味がありません。市民重視の政令都市づくりに取り組みます。



「ぼっかり青空」を歌う応援団。



知性あふれた語りで、数多くの講演会・パネルディスカッションに参加した。

新潟市政 ● 5つの変革

- 1 情報公開に基づく開かれた市政
- 2 市民ニーズを最重視する市政
- 3 腐敗・汚染を排した健全な市政
- 4 市民・NPOとの協働のまちづくり
- 5 コミュニティ重視型の政令都市づくり



一番の協力者は
やっぱりマレ子さん。

新潟政令都市 ● 3つの方向

- 1 雇用と活力を生み、新潟県や日本海圏域に貢献する政令都市
- 2 地域の誇りを育む「にいがた地元学」を基盤にする政令都市
- 3 新潟の暮らしやすさを磨き、明日の人材を育成する政令都市

みんなで新潟に
青空を呼ぼう



えっ!!こたつで講演!



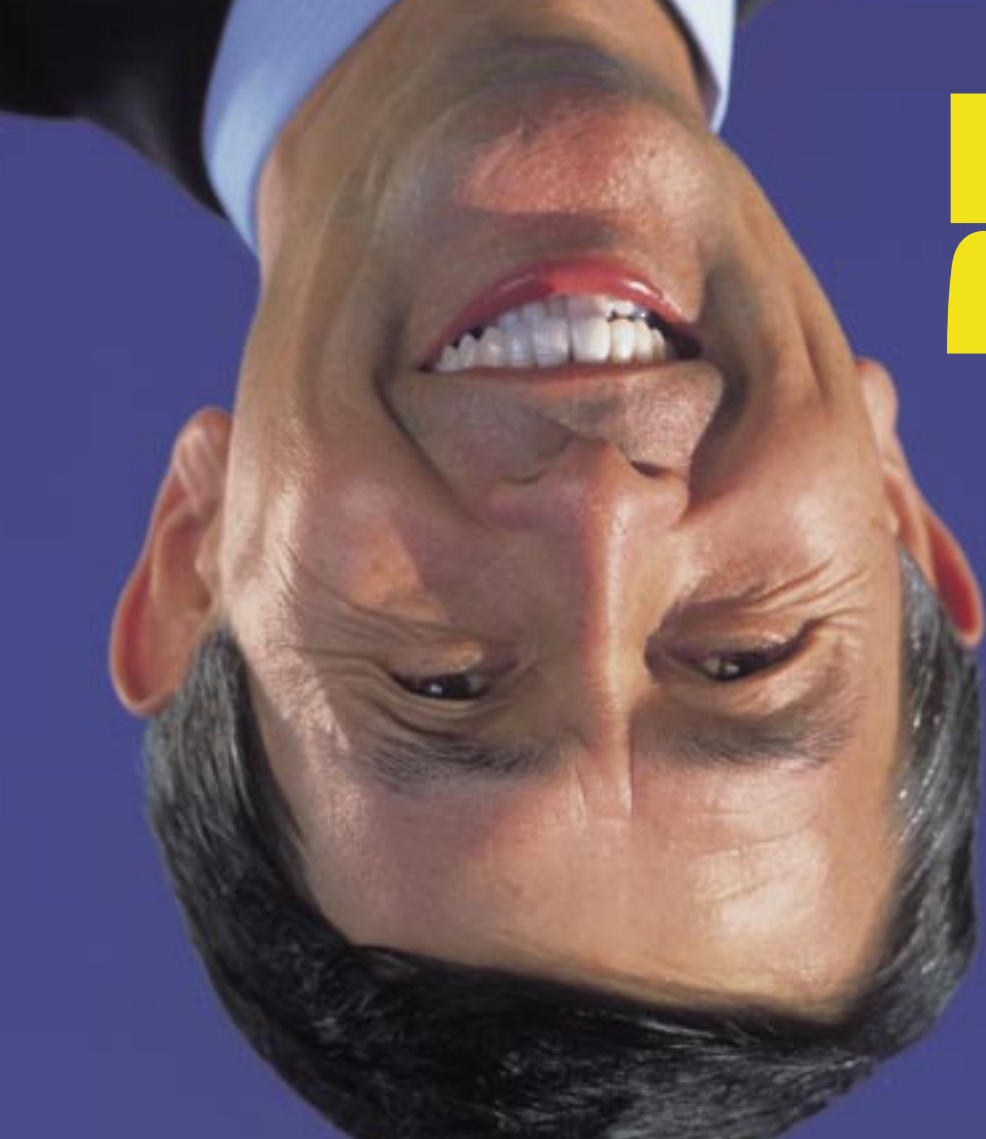
藤沢周氏との対談。(02.4.20)



子どもたちと遊ぶ父親像を経て。(87.7.5)



Akira Shinoda
Age 54



堀の



●篠田昭略歴

1948年 新潟市（流作場、篠田旅館）生まれ。54歳。新潟大学附属新潟小・中学校、新潟高校、上智大学外国語学部卒業。

1972年 新潟日報社入社。学芸部長などを経て論説委員兼編集委員。2002年9月新潟日報社退社。記者時代は上越の公害問題を担当。住民の視点で物事を見る大切さを学ぶ。以降田中角栄政治を切り口にした地域政治と、まちづくり・地域活性化を軸として取材の一線に立つ。新潟島のまちづくりや鳥屋野潟などの水辺、新潟拠点化構想などでキャンペーンを張る。

主な共著、編著「にいがた街ひと物語」「新潟をどうする」「地域おこし・人・ネット」（以上新潟日報事業社）。「宰相・田中角栄の真実」（講談社）でのインタビューは、現在のベストセラー『「田中真紀子」研究』（立花隆著）に頻繁に引用されている。

●プロフィール

- 家族＝妻、妻の母、3男と4人暮らし
- 血液型＝O型 ■好きな食べ物＝ラーメン
- 好きな色＝ブルー ■趣味＝愛犬との散歩

どなたでもご参加を：ボランティアとカンパ 青空を呼ぶ市民ネット新潟

〒950-0983 新潟市神道寺 318-1
TEL025-241-5809 FAX025-241-8912
<http://www.shinoda-a.jp/>
akira@shinoda-a.jp

Mini Column

「ミニコラム」

堀の再生は単なるノスタルジアではない。中心市街地活性化の切り札となり得ると同時に、水と環境を大切にする新潟の思いを一つにする意味も大きい。ゆったりとした時を楽しむ新潟らしい生き方の象徴として堀を語る若者もいる。「まちなか」に活気のある都市は時間の蓄積や薫りともいうべき個性を持っている。堀の再生を市民とじっくり話し合うことは、これからの新潟の生き方を考えることにつながる。

